

科目名		授業形態	担当教員名	
人間発達学		講義	砂古口 雅子・岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
人間が生涯に渡って発達する存在である『生涯発達』という視点から人を捉えること、および生命の誕生から死に至るまでの量的・質的变化を理解出来るようになることで、人間発達学の知識を臨床や支援の実践に生かす基礎を築くことを目的とする。また、作業療法士として、子どもが示す状態像が年齢相応のものであるかどうかを判断するために必要となる、人間の『身体』『運動』『認知』『心理（情緒）』『社会性』などの定型的な発達過程を知り、各発達段階における発達課題を理解すること。				
授業の到達目標				
1. 原始反射を説明できる。		5. 発達段階における認知機能の特徴を説明できる。		
2. 姿勢反射を説明できる。		6. 幼児期の社会性の発達を説明できる。		
3. 姿勢・移動動作の発達を説明できる。		7. 発達検査の名称を挙げ説明できる。		
4. 目と手の協調の発達を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	授業オリエンテーション			
2	正常発達 年表作り①			
3	正常発達 年表作り②			
4	正常発達 年表作り 発表			
5	「身体・姿勢・移動動作」「認知機能」「言語」の発達（総論）			
6	人間発達学総論 （人間発達とは 発達段階について）			
7	胎生期（胎児期）と新生児期の発達			
8	新生児期と乳児期の発達（原始反射と姿勢反応）			
9	乳児期の発達（粗大運動を中心に）			
10	乳児期の発達（微細運動、言語認知、社会性の発達を中心に）			
11	復習テスト 乳児期の発達のまとめ（ビデオ）			
12	幼児期の発達			
13	学童期の発達			
14	発達・知能評価 復習			
15	復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	50%	授業の理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト	30%	問題を解答してもらい、その結果によって評価する		
平常点				
その他	20%	グループワークの参加態度・発表等の内容にて評価する		
自由記載	再試験は筆記試験100%で成績判定を行う			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
リハビリテーションのための人間発達学 第3版		大城昌平・儀間裕貴	メディカルプレス	
自由記載	必要に応じて、参考資料をプリントにて配布する			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
写真で見る乳児の運動発達		木本孝子 他訳	共同医書出版	
自由記載				
備考				